



株式会社ユーエイ
本社 〒578-0965 東大阪市本庄西1丁目8番39号
TEL.06-6747-5607/FAX.06-6747-5608
URL http://www.yuei-group.com

O.T.ファテック事業部
東大阪営業所 TEL.06-6747-5620/FAX.06-6747-5605
淀川営業所 TEL.06-6396-1151/FAX.06-6396-1158
枚方営業所 TEL.072-858-4400/FAX.072-858-1965
奈良営業所 TEL.0743-57-7782/FAX.0743-57-7772
三田営業所 TEL.079-553-6230/FAX.079-562-6230
小牧営業所 TEL.0568-75-7206/FAX.0568-75-7208
関東営業所 TEL.03-5816-1150/FAX.03-5816-1156
加工部 TEL.0743-57-7771/FAX.0743-57-7772

新年のごあいさつ

株式会社ユーエイ 代表取締役会長 雄島 大貴

新年明けましておめでとうございます。
一昨年、昨年と比較的よい景気が続いています。前年までよかった半導体関連の需要が2018年に一服感が見られましたが、自動車関連向けが補助金、人手不足、自動化ブームなどで好調に推移しました。



2019年は半導体業界の復活が予想され、工作機械受注は引き続き高水準が期待できます。昨秋のJIMTOFでは様々な自動化が提案されました。これまで3次元でのワークの自動認識には時間を要することがありましたが、演算スピードが飛躍的に高まりました。ユーザーニーズに合致する提案はますます増えるでしょう。

当社は2018年10月1日付で生産財卸売・部品加工のO.T.ファテックとキャスター製造・販売のユーエイキャスターが合併して誕生しました。管理職の育成が目下の課題ですが、資金力や人材力を生かし、単独でやれなかったことをスピード感をもって取り組む所存です。

単体機と同じように扱えるオークマの「ARMROID」



切削時間を短縮するため搬送

商機拡大するAM

JIMTOFでは様々なAM(Additive)

「ローダー対象ワーク外径80mm×長さ80mm」ではローディング方式を一新。非

労働力や熟練技能者の不足から近年、工作機械へのロボット活用が提案されてきましたが、その距離がいつそう縮まっています。11月に東京で6日間開かれたJIMTOF2018で、オークマは機械横に付き、機械操作と同じ感覚でロボット操作できる「STANDARD」(安川電機製5軸アームを使用)と、機械内部のアームが加工をサポートし単

体機と同じように扱える「ARMROID」(自社開発4軸アーム)を披露しました。「Sier不要で対話式のタッチパネルで操作できる」そうです。自動化のアプローチはアームだけではありませ

長時間無人加工へ

ロボットが機械にいつそう接近

JIMTOF2018から

この分野で先行する松浦機械製作所は「これまで大きなモノがつくれる」とAM機で積層造形した大型ワークを多数展示。JUNEX Advance60による造形サイズはW600D600H500mmとパウダーベッド式で世界最大。同社はこれまでにAM機をざっと80台出荷。このうち国内出荷が約60台を占めます。近年は重切削できることに発展性を見出す欧州ユーザーが半分以上を占める。大型ワークが必要とされる航空機分野を狙い、月に1・5台の現在の受注を近く2台に増やしたい考えです。

リニア加工室の上面から前面に変え、主軸の正面でローダーが待機できる構造に。中村留精密工業は2タレット・2主軸機「WY1150」の機械内部に小型ローダーを内蔵「外

毎時750mmの高速積層ができるDMG森精機の「LASER RT653D」



製造)機も揃いました。パウダーノズル、パウダーベッド両方式を揃えるDMG森精機は、それぞれ年間受注約50台、30台を獲得するようになったそう。金額にしてざっと60億円のビジネスです。前者は航空機、エネルギー、鍛造金型の修理向け、後者は医療や精密部品向けと使い分けています。

アフターJIMTOF、各社が開催

JIMTOFに行けなかったお客様や会場でじっくり見られなかったユーザーを対象にしたプライベートショー「アフターJIMTOF」が開催されています。近日大阪で開かれるものをピックアップしてみました。

Table with 4 columns: メーカー, 日時, 会場. Rows include OTC, Okamoto, Tokyo Seimitsu, and OKK.

恒例企画に25人参加

JIMTOFツアー実施



当社は11月4、5の両日、お得意様を招待した恒例のJIMTOF視察ツアーを実施しました。大阪、名古屋、東京から合流するかたちで総勢25人が参加。例年よりゆったりとしたスケジュールで技術・市場動向やプレイヤーの顔ぶれの変化を見て回りました。